

## 令和5年度 県立太田西山高等学校自己評価表

目指す学校像	1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校 2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校 3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校 4 地域に愛され、信頼される学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
生徒の80%が、各教科の学習指導に関して様々な工夫がなされていると感じており、生徒の78%が授業はわかりやすいと考えている。また、生徒の77%が家庭学習を行い、授業に前向きな態度で取り組んでいるが、定期考査等では基礎学力の不足や継続的な家庭学習の不足が見られる。	1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	・生徒の実態に即した授業の展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の喚起に努める。 ①アクティブ・ラーニングによる主体的な学びに向かう力を育成するための授業改善。 ②基礎的な知識及び技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成。 ③ICT教育推進委員会を中心とした、授業におけるICTを活用した授業展開と家庭学習の定着。	B
保護者の72%は、本校の進路指導が充実していると感じており、生徒の84%は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。多様な生徒の進路希望に対応した、体系的な進路指導の充実が課題である。	2 キャリア教育の推進による、生徒一人一人に適した進路の実現	・個に応じたきめ細かな進路指導を充実するとともに、生涯にわたって充実した生活を送れるよう、生徒一人一人に適した進路の実現に努める。 ①ライフスキル教育を基盤として、コミュニケーション力を高める等の資質・能力を向上させてキャリア教育の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用し、自己有用感や自己肯定感を高め、自己分析や自己管理を深める。 ③多様な生徒の進路の実現に向けた、進路情報の提供と組織的で体系的な進路指導。	B
保護者の37%は、本校生の通学マナーをあまり良くない、保護者の45%が挨拶もあまり良くできてはいないと感じている。マナーの向上と、多様な生徒に対応した、個別の継続的な指導・支援が課題である。	3 生徒指導の充実	・多様な生徒に対応した個に応じた生徒指導と、問題行動の未然防止を重視した生徒指導により、生徒の自律から自立を育む。 ①問題行動の未然防止を重視した、学校内外における指導体制の確立。 ②全教職員による一体感とスピード感をもった問題行動への対応。 ③他の機関と連携した、個に応じた生徒支援の推進。	B
コロナ禍でも感染対策を講じた上で、学校行事や生徒会活動を精選して実施した。生徒会が自主的に文化祭とスポーツフェスティバルを一体化させて実施し、卒業式や入学式で校舎内を装飾した。また、部活動紹介動画を作成したが、生徒の主体的な活動への支援が必要である。	4 シティズンシップ教育の推進による主体的に社会の形成に参画する力の育成	・ライフスキル教育を通して、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を見つけ他者と協力して解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質・能力を養う。 ①生徒の主体的・自主的なHR活動、生徒会活動、学校行事を支援する。 ②カウンセリングマインドを持って傾聴する個別面談や教育相談体制の充実。 ③シティズンシップ教育により、自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を支援する。	B
コロナ禍でも感染対策を講じた上で、学校行事や生徒会活動を精選して実施した。生徒会が自主的に文化祭とスポーツフェスティバルを一体化させて実施し、卒業式や入学式で校舎内を装飾した。また、部活動紹介動画を作成したが、生徒の主体的な活動への支援が必要である。	5 地域、保護者との交流・連携による教育活動の充実	・地域の歴史や現状を学び、地域の人材を活用して、地域理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域や保護者の理解が得られるように努める。 ①保護者との緊密な連絡と連携。 ②中学校訪問や説明会及びHP等による情報の発信。 ③地域の人材を活用して地域理解を深める。	A
コロナ禍でも感染対策を講じた上で、学校行事や生徒会活動を精選して実施した。生徒会が自主的に文化祭とスポーツフェスティバルを一体化させて実施し、卒業式や入学式で校舎内を装飾した。また、部活動紹介動画を作成したが、生徒の主体的な活動への支援が必要である。	6 働き方改革の推進	・勤務時間削減のため、業務の効率化と質の向上、業務負担の均一化を目指す。 ①定時退勤日・完全退勤時間の徹底。 ②ICTを活用した業務の効率化（各種調査等のICT化）とICT教育の推進（反転学習	B

が、定時退勤日の徹底が必要である。また、ICTを活用した各種調査等の実施による業務の効率化を図った。校務分掌等での業務負担の均一化が課題である。		や確認テストの配信)。 ③校務分掌の業務内容を確認して、負担の均一化を図る。また、部活動時間の遵守による負担軽減を図る。		
7 授業改善の推進		・生徒による授業評価を活用し授業改善を推進する。 ①授業評価で、授業を通して、できなかったことができるようになった平均値3.5以上を目指す。 ②授業評価で、授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた平均値3.0以上を目指す。 ③授業の目的が明確で、授業内容がわかりやすく工夫されていた平均値3.5以上を目指す。		B
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	人間力を高め、地域を支え活躍する人材		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	主体的に学び続けることのできる生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語科	国語の基礎学力の定着	①基礎的な言葉の知識の定着と、言語活動による思考・判断・表現する力の育成。	A	A ・タブレットを活用した授業実践の工夫及び学力の向上する。 ・「話すこと」の学習の工夫と充実を図る。 ・主体性などの「学びに向かう姿勢」の指導の充実。 ・継続した読書活動の推進する。
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	B	
		③授業評価で、授業を通して、できなかったことができるようになった平均値3.5以上を目指す。	A	
	生徒が主体的・対話的に学習するための授業改善	①主体的・対話的に学べる教材、指導内容の研究及び授業準備の徹底。	A	
		②生徒用タブレットを効果的に活用し、授業内や家庭学習で学力の定着を図る。	A	
		③授業の目的が明確で授業内容がわかりやすく工夫されていた平均値3.5以上を目指す。	B	
読書の活動の推進	①朝の10分間読書の時期に併せた図書館との連携と利用促進、生徒の読書の機会を増やす。	A		
	②生徒の図書館利用(授業での利用も含む)年間2回以上を目指す。	A		
	③授業評価で、授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた平均値3.0以上を目指す。	A		
地歴公民科	基礎学力の定着と向上	①教科内容を精選し、学習意欲を重視したカリキュラムマネジメントを実施する	A	B ・生徒の関心を引き出すような授業内容・方法を準備する。 ・Googleフォーム・クラスルームの活用方法などの研修をする。 ・課題解決に向けた主体的な活動をうながすような授業の改善を図る。
		②Googleフォーム・クラスルーム等を効果的に活用することで家庭学習を行いやすい環境づくりを進める。	B	
		③授業の目的が明確で、内容がわかりやすく工夫された授業を実施する。	A	
	社会的事象について学ぶための技能の習得	①アクティブラーニングの手法を取り入れ、主体性を重視した学習活動を実践する。	B	
		②ICT機器などを効果的に活用し、インターネットをはじめ、さまざまな情報収集のメリット・デメリットについて理解させる。	B	
		③自分たちの課題を話し合い、課題解決に向けた主体的な活動を授業内で行う。	B	
シティズンシップ教育の推進	②現代的諸課題について探究し、地域の課題を見つける活動を通じて社会に参画する姿勢を養う。	B		
数学	分かる授業のための工夫	①十分な教材研究の上、学習内容の精選により学習意欲の向上を図る。	A	A ・生徒の学力低下にともなう学習内容の精選が必要であること。それに付随した学び直しの機会、年間指導計画の再編が必要である。ま
		②電子黒板やタブレット端末を活用し、各単元の視覚的な認識の充実及び深い学びの達成を目指す。	B	
	基礎学力の向上	①定期考ごとに課題(ワークブックやプリント等)を出し、学習習慣の改善を図る。	A	
		②授業プリントを作成し、問題演習と振り返り学習に活用する。	A	

科	学び直しの充実	①小テストや単元ごとのまとめプリントを活用し、学び直しの事項や日々の学習内容の定着を図る。	B		た、自学自習の時間の確保する。
		②検定試験や進路対策をはじめとした、生徒の進路希望に合わせた課外学習を計画的に実施し、数学的な力を伸ばす指導を徹底する。	A		
理科	基礎学力の向上	①小テストを実施し、各単元ごとに知識の定着を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の共有を更に進める。</li> <li>新教育課程完成年度として評価方法の確立をはかる。</li> <li>生徒の実態の応じた教材の利用や授業展開を再検討する。</li> </ul>
	「わかる授業」の実現に向けた工夫	②ふりかえりとして授業内容を文章としてまとめ、表現力の育成を図る。	B		
		①デジタル教材と身近な事例を提示することを有機的に組み合わせ、科学への興味関心を高める。	A		
		②実験・観察を適切かつ効果的に実施し考察する場面を多く設ける。	A		
	授業改善	③探究活動の場を設け、レポート作成などの言語活動を取り入れる。	B		
①各科目において教材の共有、評価方法の確立を実施する。		B			
	②生徒授業アンケート等を活用し、自身の授業改善に向けて取り組む。	B			
保健体育科	保健体育の授業の充実	①運動の楽しさや喜びを十分に味わうことができる授業を展開する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通してケガや事故なく、授業展開ができた。主体的に学べるような手立ての工夫が必要である。次年度も感染症対策に注意を払いながら授業を展開する。</li> </ul>
	生徒の体力向上への意識	②授業や講習会を通じてAEDの正しい使い方を習得させる。	A		
		③ICT機器を活用しながら、技術の向上について自ら分析し考えさせる授業を展開する。	B		
	特色ある体育的 school 行事	①体力テストの結果を活用し、年間を通じて補強運動を行い体力を向上させる。	A		
	②運動量を確保するための体育教材や授業形態の工夫・改善をする。	B			
芸術科	知識・技能の習得	①種目選択の成果を示す場として、スポーツフェスティバルを計画的に実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材の連続性を意識した授業展開の工夫をする。</li> <li>ICTの効果的な活用を考える。</li> </ul>
		②集団の和を示す場として、集団行動を年間を通して実施する。	B		
		①基本的な技法を体得し、各自の作品を鑑賞・発表し合うことができる。	A		
	思考力・判断力・表現力等の育成	②ICTを活用した授業展開の工夫し、知識・技能の定着を図る。	B		
		③授業評価で、授業を通して、できなかったことができるようになった平均値3.5以上を目指す。	B		
	主体的・協働的な幅広い活動の取り組み	①歴史的価値や、芸術性の高いものを広く鑑賞し、作品を評価する能力を養う。	B		
②個人やグループでの探求活動を入れ、思考・判断・表現する能力を育成する。		A			
①教材教具の事前準備、遅刻や欠席をなくす基本的な態度や姿勢を養う。		A			
	②生徒が主体的に授業に参加し、自ら表現技法を工夫できる能力を養う。	A			
	③アクティブラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を研究する。	B			
英語科	基礎学力の定着	①小テストを定期的実施し、生徒の基礎学力と学習習慣の定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業用ワークシートの共有や分担を明確にし、授業準備の効率化を図る。</li> <li>年間指導計画作成時に考查範囲の設定する。</li> <li>Phonicsの導入する。。</li> <li>生徒の実態に合わせた授業をするため、課題等を十分に検討する。</li> <li>各単元等における授業展開方法を共有する。</li> </ul>
		②実用英語技能検定の受検を促し、英語運用能力の育成を図る。	A		
		③進学課外を充実させるとともに、成績向上課外を積極的に実施する。	A		
	分かりやすい授業	①ICTツールを活用し、授業で使用するワークシートを教員間で共有する。	B		
		②ALTや留学生との交流や英語運用力講座を通して、英語への関心を深めさせる。	A		
		③生徒による授業評価において、「この授業を通して、英語や海外の文化に対する興味や関心が高まった」と答えた生徒の評価平均が3.5以上になることを目指す。	A		
	英語への興味を促す	①ICTを活用して生徒の学習時における視覚的・聴覚的な効果を狙い、生徒の深い学びに役立たせる。	B		
		②辞書アプリDONGRIの導入により、体系的な学習の実施を図る。	B		
		③4技能の習得のため、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる。	B		
家庭	自立に必要な基本的知識と技術の習得	①生徒が主体的に取り組める適切な教材を提供する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着を目指し、ICT教材を活用した反転学習を推進する。</li> </ul>
		②ICT教材を活用した反転学習を行い、基礎的内容の定着を図る。	A		
		③施設・設備の安全管理に配慮し、実習を実施する。	B		

科	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度の育成	①ホームプロジェクト学習を通して、主体的に自らの生活課題の解決を図ろうとする態度を育てる。	B		・主体的な課題解決学習としてホームプロジェクト学習を充実させる。	
商業科	基礎学力の向上を目指し分かる授業を展開する	①商業を初めて学ぶ生徒に対して分かりやすい言葉・表現で授業を行い、苦手意識を持たせないよう工夫する。 ②自らが調べたり、家庭学習に取り組みやすいような宿題・課題の出し方を工夫する。	A	A	・マナー教育よりも実習を多く取り入れ教育内容を充実させる。 ・個々の生徒に、寄り添った指導で資格取得に取り組めるよう指導を強化する。 ・地域との連携強化を図る。	
	規範意識の向上	①挨拶の仕方など、授業を通して規範意識の向上を図る取り組みを行う。	A			
	地域の特色を活かした授業	①インターンシップや販売実習・企業紹介動画作成などで、地域企業との交流を図る。 ②伝統文化を意識し、生け花や着付けの学習を通して日本らしさを学ぶ授業を積極的に行う。	A			
	ICT機器の活用	①キーボードの入力練習から始まり、ICT利用の検定試験受験に向けた取り組みを行い技術の向上を図る。	A			
		②課題解決型学習の最終目標をプレゼンテーションとしパワーポイントの利用技術の向上を図る。	B			
		③最新のパソコンでの授業を充実させるとともに、パソコンでの試験・採点を積極的に行う。	A			
情報科	情報を活用するための知識や情報社会との関わりについて理解させる。	①教科書を読み、内容を確認するためのワークシートを活用する。 ②情報に関わる最新のニュースや時事問題を授業で取り上げる。 ③コミュニケーションツールの利用法を学び、双方向コミュニケーションを行う。	A	A	・生徒がパソコンの操作をスムーズに行うことができるように、しっかりと実習の時間を確保する。 ・生徒の情報社会についての問題意識を高める課題を準備して、意欲的に取り組めるような授業を展開する。	
	情報技術を適切かつ効果的に用いる技能を身に着ける。	①タイピングの練習を行い、スムーズに情報が入力できるようにする。 ②コンピュータ実習の時間をしっかりと確保し、操作に慣れるようにする。 ③授業中の実習を通して、表計算ソフトを用いたデータの処理方法を習得する。	A			
	情報社会の問題の発見・解決に向けて主体的な取り組みを行う。	①ICTを活用したアンケートなどにより、身近な問題についてデータを集める。 ②デジタルツールを用い、学校生活の中でタブレット端末を活用する機会を増やす。 ③身近な問題についてレポートを作成する課題を行い、問題の分析力を身に付ける。	B			
	福祉科	福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得	①福祉に関する知識を福祉の具体的事例と関連付けて理解し考察させる。 ②生徒の体験から考察、討論できるよう学習活動を展開する。			B
		福祉に関する課題の発見と、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力の養成	①福祉に関する具体的な事例を取り上げ考察や討論を行う。その上で様々な事例について実践に結びつく課題解決のための学習活動を行う。 ②介護職員初任者研修修了を目指し、理論と実践の繋がりある学習活動を展開する。			B
		主体的かつ協働的にとり組む態度の育成	①地域の福祉について学び、地域の福祉機関と連携しながら、協働して課題の解決に取り組む学習活動を行う。 ②介護職員初任者研修修了を目指し、主体的に学ぶ意欲を高める学習活動を行う。			B
教務	教育計画の立案と円滑な運営	①コース制の可否も含め、適切な教育課程のあり方について議論の場を設ける。 ②授業と学校行事の効果的かつバランスのとれた計画を立案する。	B	A	・学級減や生徒の実情に合った教育課程の編成する。 ・ICT機器の活用による授業改善の推進する。 ・業務負担の均一化及び効率化を通じた働き方改革を展開する。 ・観点別評価と、定期考査や	
	学習活動等の充実	①公開授業や相互の授業参観、生徒による授業評価等を通して、授業の改善を図る。 ②ICT教育推進委員会と連携し、ICT機器の効果的な活用について職員に情報提供を行う。	A			
		③反転学習や意見の集約を図る手法の一つとしてICT教材を活用し、生徒の基礎学力の向上を図るとともに思考力や表現力を育成する。	B			
		①ホームページの充実及び更新に努め、最新の情報を発信する。また、ポスターや学	A			

部	効果的な広報活動	校パンフレットの刷新を図る。		A	追考査の回数や実施方法について研究する。 ・朝の10分間読書を通して本に親しみ持たせると共に図書館の利用促進を図る。
		②中学校訪問や学校説明会の充実を図り、本校の魅力をさらに発信できるように努める。			
図書館の充実及び読書の推進	①HRや授業に関わる書籍を充実させ、図書館の利用促進を図る。		A		
	②「朝の10分間読書」や授業での図書館の活用を通して、本に触れる機会を増やすとともに読書意欲を高め、自主的学習を支援する環境整備に努める。		A		
生	未然防止の指導体制の確立	①毎週の生徒指導部会で生徒情報等を共有し、問題行動の未然に防止につながるように情報の共有を図る。		B	・登校指導時のチェック部分を明確にし、重点的な指導が行える体制を整える。 ・自転車や原付の安全指導の徹底と自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務などルール改定を周知する。 ・スクールカウンセラーなどの専門家による教員研修の複数回実施する。
		②計画的に登校指導、校内外の巡視を実施し、挨拶の励行や身だしなみ指導の徹底を図り、生活指導を行う。		A	
③スクールカウンセラーの積極的な活用を図り、さらに外部の機関とも連携しながら組織的に問題解決に取り組む。			A		
徒	適切な初期対応	①学校生活アンケートを毎月実施し、いち早く生徒の様子を把握する。		A	
		②外部から各専門家を講師として招き、いじめや特別支援教育に関する校内研修を複数回実施し、適切な生徒対応につなげる。		A	
指 導	一体感のある指導体制の確立	①定期的に身だしなみ指導を実施し、全職員の共通理解のもとに高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。家庭とも連携や協力しながら改善を図る。		B	
		②生徒指導方針、特別指導の基本方針に沿った対応が行えるように努める。		B	
		③毎週、各学年主任、生徒指導相談員と主任会を開き情報を共有したり、生徒指導部で議論されている内容を、全職員と共有できるようにデータ化し、閲覧できるようにすることで、共通理解のもと、指導できるように努める。		B	
				B	
進 路 指 導 部	一人一人の進路希望先に 応じた支援	①進路希望調査の実施に加え、個別面談等を通して生徒の進路目標の把握に努める。		B	・進路に直結する基礎学力の定着や向上のために、課題を把握、分析し各教科との共有を図る。 ・外部模試データ結果の分析と活用法を検討する。 ・進路多様校として学年と連携した組織的、継続的な指導体制の構築を図る。
		②各学校及び企業、ハローワーク等と連携を図り、生徒個々の進路希望に応じた適切な指導に努める。		A	
		③外部模試のデータを共有し、各教科と連携しながら基礎学力の定着に努める。		B	
		④教科と連携した進学課外の実施を通して、基礎学力の向上と入学・入社試験に対応できる力の育成を図る。		B	
		⑤大学入学共通テスト対策及び多様な入試制度に対応できるよう情報の収集を図る。		A	
		⑥各種資格取得やオープンキャンパス、一日看護体験などの参加を推奨する。		B	
職業観・勤労観の育成	①進路ガイダンスや進路講話等の進路探求活動を通して、生徒の進路や職業意識の醸成を図る。		A		
	広報及び情報提供の充実	①「進路の手引き」や「進路だより」などを通じて、面接週間や保護者面談時などに適宜進路情報を提供する。		B	
		②進路資料室や進路掲示コーナーの充実を努め、的確な進路情報を生徒に提供する。		B	
特 別 活 動 部	HR活動、学校行事、生徒会活動の活性化	①生徒と協力した学校行事及び生徒会活動を実施する。		A	・応援委員や生徒会役員が主体的に野球応援することができた。来年度は吹奏楽部員が少ないため応援をどうするかは課題である。 ・源氏川清掃ボランティアは多くの生徒が参加した。更に参加生徒を増やすことが
		②キャリアパスポートの有効活用により、生徒が主体的・意欲的に取り組める体験的活動を充実させ、企画・立案する。		B	
		③学校行事及び生徒会活動の新校としての体制づくりに努める。		B	
	部活動の定着率の向上と支援の継続	①太田西山高の部活動及び地域と連携した活力ある部活動を展開する。		C	
②部活動の様子や活躍をホームページに掲載し、生徒たちの自己有用感を向上させる。			B		

					課題である。
保健 厚生 部	学習環境の美化・整備	①整理整頓・清潔などへの啓発を行い、環境美化に対する生徒たちの意識の醸成を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の研修を平日の放課後に実施する。</li> <li>・学校歯科医による衛生講話の実施し、生徒自身が意識するように働きかける。</li> <li>・階段、廊下の清掃の徹底と清掃分担区の見直をする。</li> <li>・S Cの広報誌を年3回発行する。</li> </ul>
		②清掃指導を重点化し、生徒たちの快適な学習環境作りを目指す。	B		
		③学校環境の安全点検を必ず3回行い、修理が必要な場所は修繕を行う。	A		
	生徒の心身の健康の増進	①各種検診の実施と学校医の指導のもと、保護者との連携を保ちながら、健康な生活を送る。	A		
		②性の講演会（1年）等を実施し、生徒の心身の健全育成を図る。	A		
	防災意識の高揚	①地域と連携した避難訓練を実施し、具体的な行動を通して緊急時の対応に備える体制を作る。	A		
	②防災に関する講話などを通して生徒たちが主体的に当事者意識をもつように啓蒙する。	B			
	教育相談の充実	①教育相談の充実、S Cと担任等との情報交換の機会を図る。	B		
	情報発信	①広報誌を発行・配付し、保健厚生に関する情報の提供・共有を図る。	A		
渉 外 部	P T A活動の円滑な実施	①役員・委員会を円滑に実施し、早めの情報伝達・共有を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初より講師の選定を行い研修会が実施できるよう計画する。</li> </ul>
		②関係分掌や学年との連携を緊密にし、協力体制を密にしていく。	A		
	研修体制を強化する	①校内親子研修会を実施し、研修の機会を充実させる。	B		
		②役員・委員の方々には積極的に県北指導者研修会や生徒指導中央大会、その他、県内外の研修会等への参加を促す。	A		
	本校教育に対する保護者の理解と協力の促進	①学校行事の記録に努め、P T A会報『太田西山』を通して、生徒の諸活動・P T A活動を知らせる。	A		
第 一 学 年	マナーの向上と基本的生活習慣の確立	①個別面談を通して生徒理解に努め、生徒情報を学年職員で共有する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒情報についてより良い共有方法を考える。</li> <li>・身だしなみ指導の基準と指導方法について再考する。</li> <li>・授業時間と休み時間のメリハリをつける指導を徹底。</li> <li>・スコラ手帳を使わずにアプリなどで学習習慣を管理させる方法を検討する。</li> <li>・進路意識を更に向上させる指導を行う。</li> </ul>
		②身だしなみ指導や登校指導を通して、規範意識を育む。	A		
		③時間の厳守や挨拶の励行について、継続的に指導する。	A		
	主体的な学習習慣の確立と進路意識の涵養	①ICTやスコラ手帳の活用を通して、自ら学習習慣を管理できるように指導する。	B		
		②英語検定、数学検定等の資格取得を励行し、それを支援する課外授業を展開する。	A		
		③進路ガイダンス等を通して、自身のキャリアについて考えさせる。	A		
	社会の形成に参画する力の育成	①HR活動や探究活動のグループワークを通して、協働的に課題を解決する力を育む。	A		
		②学校行事や部活動への参加を勧め、集団へ寄与する態度を育む。	B		
第 二 学 年	基本的な生活習慣の確立及びきめ細やかな生徒指導	①身だしなみ指導や登校指導を通じ、基本的な生活習慣の定着を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不十分であった身だしなみ指導の徹底と落ち着いた生活を送れるような生活習慣の確立が主である。また、低下している生徒の学力の向上を促せる機会を設けること。</li> </ul>
		②挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法を身に付けさせ、規範意識やマナーを向上させる。	B		
		③生徒及び家庭との情報交換を綿密に行い、円滑な問題行動の解消を図る。	A		
	主体的な学習習慣の確立及び進路意識の高揚	①タブレットやスコラ手帳の活用により、学習習慣の管理を図る。	B		
		②検定や課外、外部模試の利用により進路意識の向上を図る。	B		
		③進路ガイダンス等を通して、キャリア教育の充実を務める。	A		
	特別活動への積極的な参加と社会の形成に参画する力の育成	①学年行事や委員会活動への主体的な参加を促す。	B		
		②探究活動とHR活動を通して、他者理解や協同の大切さを認識させる。	A		
		③ボランティア活動や地域の人材との関わりを通して、地域との協働を推進する。	B		
第 三 学	生徒が主体的に進路決定に向けて思考し行動するキャリア教育の充実	①生徒が自らの将来を探究的に考えて決められるような進路指導を実践する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の適性と進路希望の合致の見極めを図る。</li> <li>・基礎学力が進路上とても重要であることを生徒へ周知させる。</li> <li>・課題の共通理解と協力と分</li> </ul>
		②各種進路ガイダンス等を活用して体系的な進路研究をさせるように促す。	A		
		③実際の見聞とICTを通して進路に関する情報収集能力を身に付けさせる。	B		
	自律的な基本的生活習慣の確立と積極的に学習に取り組む姿勢の養成	①生徒及び保護者との面談等により連携し合いながら心の教育の充実を図る。	A		
		②時間や挨拶及び身形などの社会における大切さの理解と実行を促進する。	B		
		③基礎学力の担保が進路などに与える有効性を自己肯定感の向上に結ばせる。	B		

年	組織的で効果的に学年の運営が為される共通理解と協力分業の推進	①学級・学年・学校と生徒及び保護者間の適切な報告・連絡・相談に努める。	A	業の更なる推進する。
		②各教員自身が特長を十分に活かせるような環境や雰囲気形成を意識する。	A	
		③学年全体で必要業務の内容や情報及び課題を共有して協力分業を進める。	A	

※評価規準 A：目標を大きく上回る達成度である。 B：目標を上回る達成度である。 C：ほぼ目標どおりの達成度である。  
D：目標を下回る達成度である。 E：目標を大きく下回る達成度である。